

# 湯沢町・南魚沼商工会景況調査報告書

## 1. 調査要領

### (1) 調査対象

- ア 対象地区 南魚沼市内及び湯沢町商工会地区内小規模事業者  
イ 調査企業数 1,826 事業所 (うち小規模事業者数 1,671 事業所)  
ウ 回答企業数 130 事業所 (うち小規模事業者数 106 事業所)  
(回答率 7.1%)

### (2) 調査対象期間

- 令和7年7月～令和7年12月  
(調査時点 令和7年12月31日)

### (3) 調査方法

- 毎月の文書配布にて調査票の配布。FAX、Googleフォームにて回答

### (4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	137	7.5%	14	10.8%
建設業	512	28.0%	34	26.2%
卸・小売業	378	20.7%	26	20.0%
サービス業	799	43.8%	56	43.1%
合計	1826	100.0%	130	100.0%

## 2. 地域内産業全体の景況概要

### 地区内景況のコメントする

足元の景況感は、売上高が前年同期比で「増加(52)」が「減少(36)」を大きく上回るなど、着実な回復基調にあります。客単価の緩やかな上昇も寄与し、採算面でも一定の底堅さが見られます。しかし、経営上の問題として「仕入単価の上昇(83)」が突出しており、コスト増が収益を強く圧迫している現状は深刻です。

また、「従業員の確保(48)」への懸念や人件費増が重なり、雇用・資金繰りは横ばい圏内での推移に留まっています。こうした背景から、今後の見通しは「不変」が最多となり、景況判断の悪化予測が好転を上回るなど、先行きへの強い警戒感と慎重姿勢が鮮明に現れた結果となりました。

## 【後継者の状況】

後継者状況をコメントする

過半数を超える事業所で後継者が未定となっており、将来的な廃業リスクや技術承継の停滞が懸念されます。持続可能な経営に向け、後継者育成やマッチング支援といった対策の強化が急務といえます。

後継者 あり	50事業所	38.5%
後継者 なし	80事業所	61.5%

## 【売上高】

地区内事業者の売上に関するコメントする

前年同期比・前期比ともに「増加」が「減少」を大きく上回り、着実な回復基調にあります。特に前年同期比では「増加（52）」が「減少（36）」を16ポイント上回るなど、経営環境の改善を実感する事業者が多いことが示されました。一方、今後の見通しは「不変」が最多で、増加と減少がほぼ拮抗しています。現状の回復勢いが一服し、先行きへの不透明感から慎重な見方が強まっていると言えます。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
52	42	36	49	44	37	38	53	39

## 【採算】

地区内事業者の採算性についてコメントする

前年同期比・前期比ともに「不変」が最多ですが、「好転」が「悪化」を僅かに上回っており、底堅く推移しています。特に前年比では好転（44）が悪化（40）を上回り、緩やかな改善傾向が伺えます。一方で、今後の見通しは「不変（68）」が突出しており、好転（29）が悪化（33）を上回る逆転現象が見られます。コスト増への懸念などから、先行きは弱含みと捉える慎重な姿勢が鮮明となった結果となりました。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
44	46	40	38	55	37	29	68	33

## 【仕入単価】

地区内事業者の仕入状況をコメントする

前年同期比・前期比ともに「上昇」との回答が圧倒的多数を占めており、依然として強いコスト増加圧力にさらされています。前年同期比では「上昇（109）」に対し「低下（3）」と、ほぼ全ての事業者が負担増を実感している状況です。今後の見通しでも「上昇（93）」が突出しており、高止まりやさらなる負担増が続くとの懸念が非常に強く、収益確保を阻む最大の要因となっていることが鮮明にしました。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
109	18	3	97	28	5	93	36	1

## 【販売（客）単価】

地区内事業者の客単価等をコメントする

前年同期比・前期比ともに「不変」が最多ですが、「上昇」が「低下」を大きく上回っており、緩やかな上昇傾向にあります。特に前年同期比では「上昇（55）」が「低下（9）」の約6倍に達しており、価格転嫁や高付加価値化の動きが一定程度進んでいることが伺えます。

今後の見通しも同様の傾向で、低下を予測する回答は極めて少なく、単価水準の維持または上昇を見込む強含みの姿勢が示された結果となりました。

### 前年同期比

上昇	不変	低下
55	66	9

### 前期比

上昇	不変	低下
47	73	10

### 今後の見通し

上昇	不変	低下
53	66	11

## 【資金繰り】

地区内事業者の資金繰り状況についてコメントする。

前年同期比・前期比ともに「不変」が圧倒的多数を占めており、概ね安定的に推移しています。好転（19）と悪化（20）の数がほぼ拮抗していることから、急激な資金繰りの悪化は見られないものの、余裕がある状況とも言い難い現状が示されました。

今後の見通しも「不変（98）」が最多であり、現状維持を見込む事業者が多いものの、悪化（18）が好転（14）を上回るなど、先行きへの慎重な姿勢が継続しています。

### 前年同期比

好転	不変	悪化
19	91	20

### 前期比

好転	不変	悪化
15	97	18

### 今後の見通し

好転	不変	悪化
14	98	18

## 【雇用動向】

地区内の雇用動向をコメントする

全ての比較項目において「不変」が圧倒的多数を占めており、現状維持の傾向が極めて強く現れています。前年同期比では「減少（19）」が「増加（12）」を僅かに上回っており、人員確保の難しさや、自然減に伴う補充の抑制といった側面が推察されます。

今後の見通しでも「不変（106）」が大半ですが、増加（9）に対し減少（15）が上回る予測となっており、労働力不足や人件費負担を背景とした慎重な採用スタンスが継続しています。

### 前年同期比

増加	不変	減少
12	99	19

### 前期比

増加	不変	減少
7	108	15

### 今後の見通し

増加	不変	減少
9	106	15

## 【景況判断】

地区内の景況判断についてコメントする

前年同期比・前期比ともに「不変」が圧倒的多数を占めており、足元の景況感は横ばい圏内で推移しています。「好転」と「悪化」がほぼ同数で拮抗（前年比28対29、前期比26対27）しており、明確な回復を実感するには至らない、足踏み状態にあると言えます。

今後の見通しについても「不変（81）」が最多ですが、悪化（31）が好転（18）を大きく上回っており、先行きに対する慎重な見方や下振れ懸念が一段と強まった結果となりました。

### 前年同期比

好転	不変	悪化
28	73	29

### 前期比

好転	不変	悪化
26	77	27

### 今後の見通し

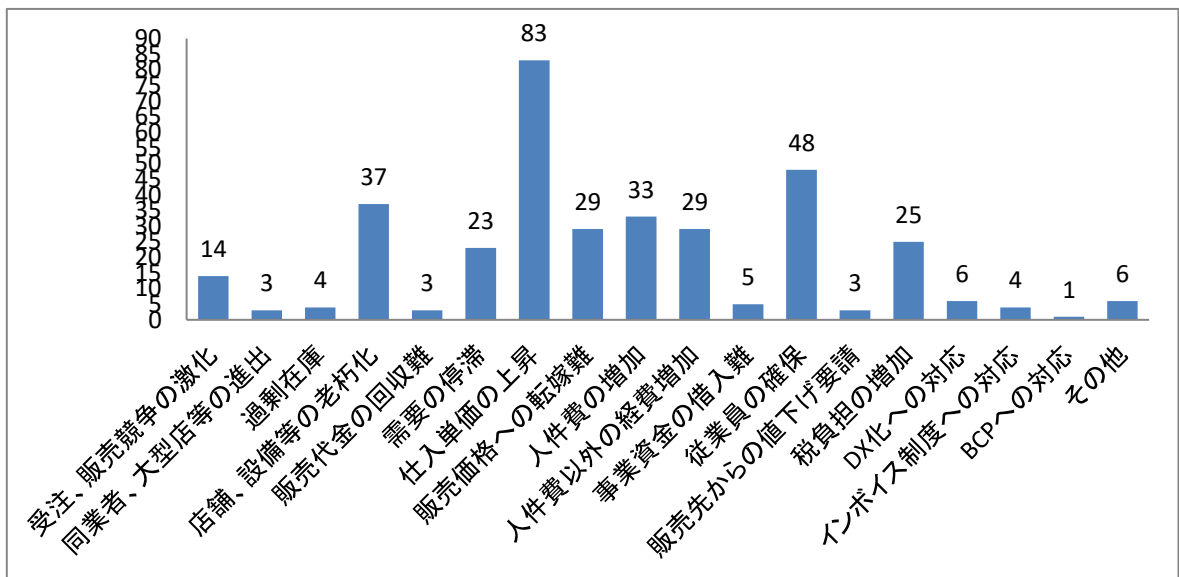
好転	不変	悪化
18	81	31

## 【経営上の問題点】

地区内事業者の経営上の問題点についてコメントする

「仕入単価の上昇（83）」が突出しており、コスト増が最大の懸念事項となっています。次いで、「従業員の確保（48）」や「店舗・設備の老朽化（37）」、「人件費の増加（33）」が上位に挙がっており、物価高騰に加え、人手不足やインフラ維持が経営を強く圧迫している現状が浮き彫りとなりました。

総じて、外部要因によるコスト負担の増加が、事業継続における深刻な課題となっていることが伺えます。



### 3. 産業別景況概要

#### (1) 製造業

地区内製造業に係る景況状況をコメントする

前年比・前期比ともに「不変」が最多で、足元は足踏み状態にあります。特筆すべきは「仕入単価」で、ほぼ全社が「上昇」と回答しており、極めて強いコスト増圧力にさらされています。

一方で、客単価や今後の見通しにおいて一定の「上昇・好転」への期待も見られます。総じて、深刻なコスト負担を価格転嫁や効率化で補おうとする、忍耐強くも前向きな模索が続く現状が浮き彫りとなりました。

#### (2) 建設業

地区内建設業に係る景況状況をコメントする

前年同期比・前期比ともに売上が「増加」に転じており、足元の稼働状況は良好です。仕入単価の上昇(29)が顕著な中、販売単価(客単価)の上昇(21)も進んでおり、一定の価格転嫁が採算性を支えている様子が伺えます。

一方で、今後の見通しは売上の減少予測(12)が増加と拮抗し、景況判断も「不変(23)」が最多となるなど、受注環境やコスト継続増への警戒感から慎重な姿勢が強まっています。

#### (3) 卸・小売業

地区内卸、小売業に係る景況状況をコメントする

売上高が「増加・不変・減少」の各回答で拮抗しており、一進一退の状況にあります。仕入単価の「上昇(21)」が依然として突出する一方で、販売単価への転嫁が「不変(12)」にとどまる層も多く、コスト増を完全には吸収しきれていない構図が伺えます。

今後の見通しも景況判断で「悪化(9)」が「好転(3)」を上回るなど、消費の伸び悩みや利益率の低下に対する強い警戒感が示された結果となりました。

#### (4) サービス業

地区内サービス業等に係る景況状況をコメントする

売上高において「増加(24)」が「減少(15)」を上回っており、他業種と比較して需要の回復が鮮明です。仕入単価の上昇(45)が続く中、客単価の上昇(22)や「不変(33)」とする動きも見られ、価格転嫁を模索しつつも集客維持を図る姿勢が伺えます。

今後の見通しも、売上や単価面で底堅い予測が出ていますが、景況判断では「不変(35)」が最多となっています。回復傾向にはあるものの、コスト増が利益を削る構図への警戒感から、慎重な判断が続いている状況です。

